

平成20年(2008年)10月6日

長野県病虫害防除所

病虫害発生予察特殊報 第4号

害虫名：アワダチソウゲンバイ (カメムシ目ゲンバイムシ科)

学名：*Corythucha marmorata*(Uhler)

発生物：宿根アスター、ヒマワリ、アゲラタム (カッコウアザミ)

1. 発生確認経過

平成20年8月、南信地方の花弁栽培ほ場からゲンバイムシ類が寄生した宿根アスターが県南信農業試験場に持ち込まれた。8月20日に現地ほ場を調査したところ、宿根アスターの葉に寄生して吸汁する成虫と幼虫を確認した。圃場付近の雑草についても調査した結果、セイタカアワダチソウ、ヒメムカシヨモギ、ヨモギ、クワモドキ (オオブタクサ) への寄生が確認された。その後、県下各地で同じゲンバイムシ類がヒマワリ等に寄生していることが確認された(表1)。

現地で採集した成虫の同定を農林水産省名古屋植物防疫所に依頼したところ、アワダチソウゲンバイと判明した。

本種は北米原産で、国内では平成12年に兵庫県で初確認された。その後、発生は広く拡大し、26都府県で報告がある(平成20年9月3日現在、表2)。

2.. 形態及び生態

(1) 形態

成虫の体長は約3mmで軍配に似た形状をしており、前翅には多数の不定形の褐色斑がある。前翅の周縁部に顕著な棘状の突起を有し、これらの特徴で他のゲンバイムシ類と容易に識別できる。

幼虫は全身が褐色の紡錘形で、翅芽の基部や腹部の基部がやや暗褐色になる。

(2) 生態

大阪府の調査によれば、セイタカアワダチソウでは5月～11月に発生が見られ、特に6～8月が多い。露地栽培夏ギクではセイタカアワダチソウで発生した成虫が飛来することにより寄生が始まるものと推測されている。

成虫、幼虫とも葉裏に寄生し、特に幼虫は集団で吸汁加害する。成虫で越冬する。

3. 被害及び寄主植物

(1) 被害

葉に吸汁による白いかすり状の脱色斑点が発生するほか、排泄物により茎葉に汚れが発生する。加害が進行すると葉が黄化、枯死する。

(2) 寄主植物

県内で発生を確認した植物は宿根アスター、ヒマワリ、アゲラタム(カッコウアザミ)などのキク科作物とセイタカアワダチソウなどのキク科雑草であった。

他県では、キク、ナス、サツマイモ、エボルブルス(アメリカンブルー)などにも寄生するとの報告がある。

4. 防除対策

- (1) キク科雑草が主な発生源となるため、ほ場周辺の除草を徹底する。
- (2) アワダチソウグンバイに登録のある薬剤は、キクに対するコテツフロアブル（発生初期、2回、2000倍）のみである。

表1 アワダチソウグンバイの寄生が確認された植物

(平成20年9月10日現在、県南信農業試験場、病害虫防除所調査)

寄主植物
宿根アスター、ヒマワリ、アゲラタム（カッコウアザミ）、セイタカアワダチソウ、クワモドキ（オオブタクサ）、ヨモギ、ヒメムカシヨモギ、クワイモ

表2 国内でアワダチソウグンバイが確認された26都府県（平成20年9月3日現在）

福島県・群馬県・埼玉県・東京都・神奈川県・新潟県・山梨県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・高知県・佐賀県・熊本県

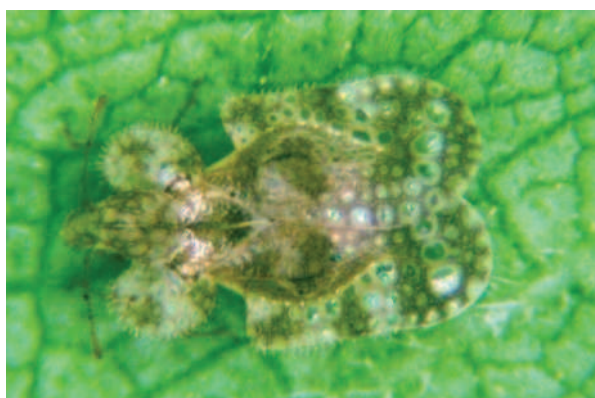


図1 アワダチソウグンバイ成虫

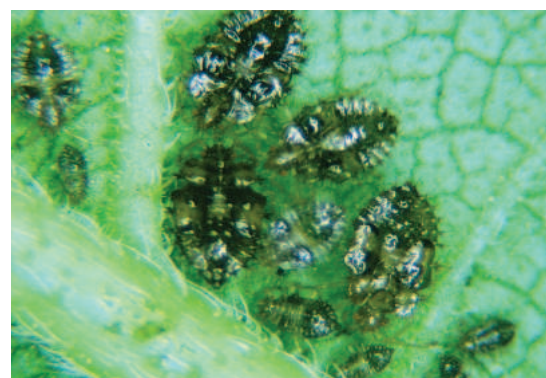


図2 幼虫



図3 宿根アスターの被害状況（葉のかすり状斑点）



図4 セイタカアワダチソウの葉の被害状況